

地方創生☆政策アイデアコンテスト2018

私は仕事も子供も共にGET!

テレワークで始まる地元**8割**、都心**2割**の働き方

人口の社会増、そして自然増を目指す!

2018年10月

東京都西東京市

**N・M・E**

**Nishitokyo  
Machizukuri  
Empowerment**



# 西東京市はこんなところ

都心部へのアクセスの利便性と郊外の居心地の良さを享受できるまち

## 東京23区に隣接した多摩地域東部にある市

2001年、旧・田無市と保谷市が合併して発足

面積 15.75km<sup>2</sup>（東西4.8km、南北5.6km）

標高 67m

人口 20万人

市内には西武池袋線、西武新宿線の2路線5駅があり、市内から池袋や新宿へは電車で**約20分**でアクセス可能（始発駅が**2駅**あり座って通勤も！）

約8割の地域は駅まで**徒歩20分**

Nishitokyo City

## 西東京市の特徴 「平成28年 西東京市 まち・ひと・しごと 創成総合戦略」より

### 1 都心部へのアクセスの利便性と郊外の居心地の良さを享受できるまち

都心から**20km**でアクセスが良い、緑や自然が多く安らぎを感じることができる

### 2 コンパクトでアクセス性の良いまち

面積は小さいながら**2路線5駅**あり、約8割の地域は駅まで**徒歩20分**

### 3 多世代が居住するまち

持ち家比率**61%**、ファミリー世帯が多く居住

### 4 働く市民の半分が都心に通勤するまち

従事している産業では**第3次産業**の割合が高い

### 5 農やみどりのフィールドがあるまち

**都市農業**の魅力が多く潜在

### 6 魅力的な学習環境や市民文化が息づくまち

縄文時代の大集落「**下野谷遺跡**」や  
世界最多の星が投影できるプラネタリウムを持つ  
「**多摩六都科学館**」

### 7 健康都市宣言のまち

WHOが提唱する「**健康都市連合**」に加盟

# 提案の動機

近年、**都心にますます人が集まっている**といわれている

背景には、都心は雇用の機会が多く、交通の利便性が高いことなどがある

「ヒト・モノ・カネ」が集中する都心はまさに独り勝ちといえるだろう

その一方で、**地方の衰退が危惧**されている

日本の人口が減少局面にある上、都心に人が吸い上げられていることが要因だろう

そんな中でも、まちづくりに成果を上げている地方都市のニュースを耳にすることも多い

**創意工夫でまちは活気づく**

**都心ではない そうかといって地方でもない 私たちの西東京市はどうだろうか？**

働く人の半数は都心で働くベッドタウン

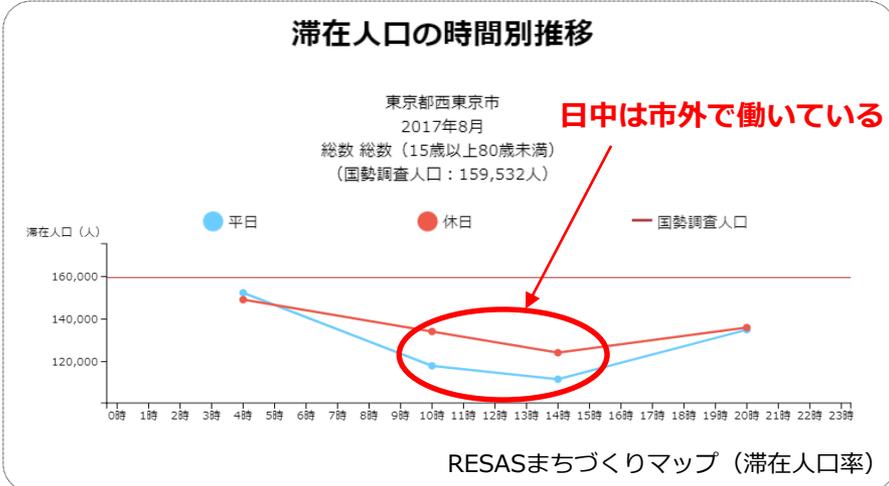
最近よく聞く「働き方改革」で、私たちの生活はどう変わるのだろうか？

これからの私たちが生き生きと暮らすために何をすべきか？

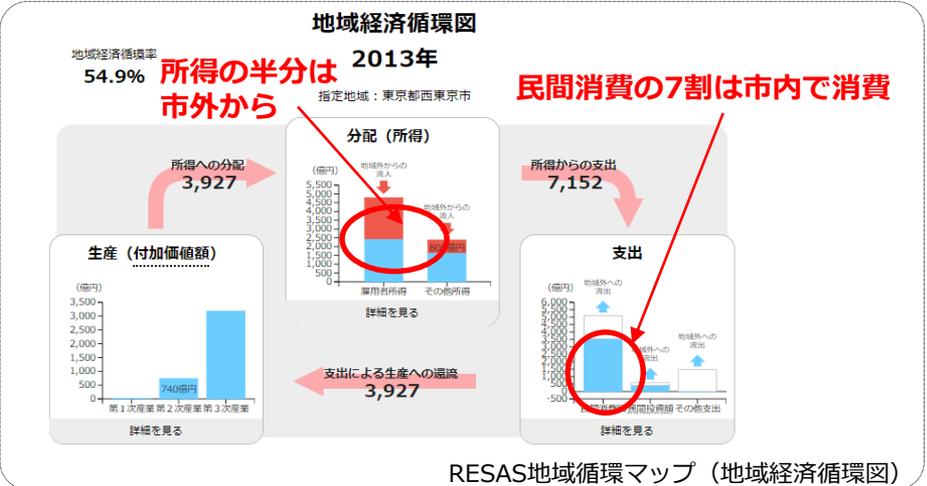
まずは、「**働く人**」にフォーカスを当てて考えてみよう

# 都心で働き、市内で消費する人たちのまち

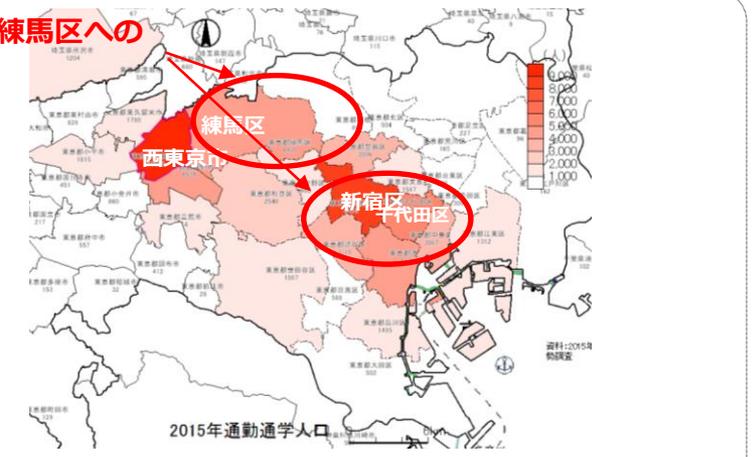
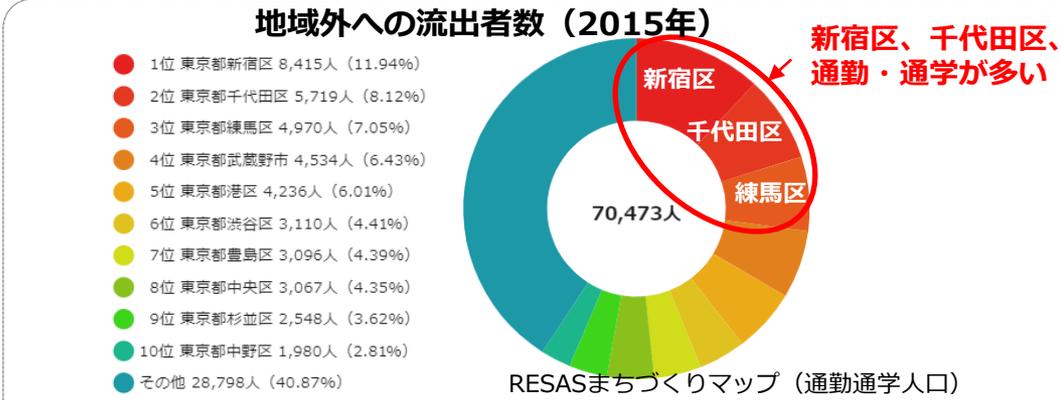
## 昼間人口が少ないベッドタウン



## 所得の半分を市外で稼ぎ、7割を市内で消費



## 市民の通勤・通学先は都心 (東京23区)



西東京市民通勤地分布 (RESASデータより作成)

働く人の約半数は都心※ (東京23区) で仕事に従事  
(平成28年「西東京市 まち・ひと・しごと 創生総合戦略」より)

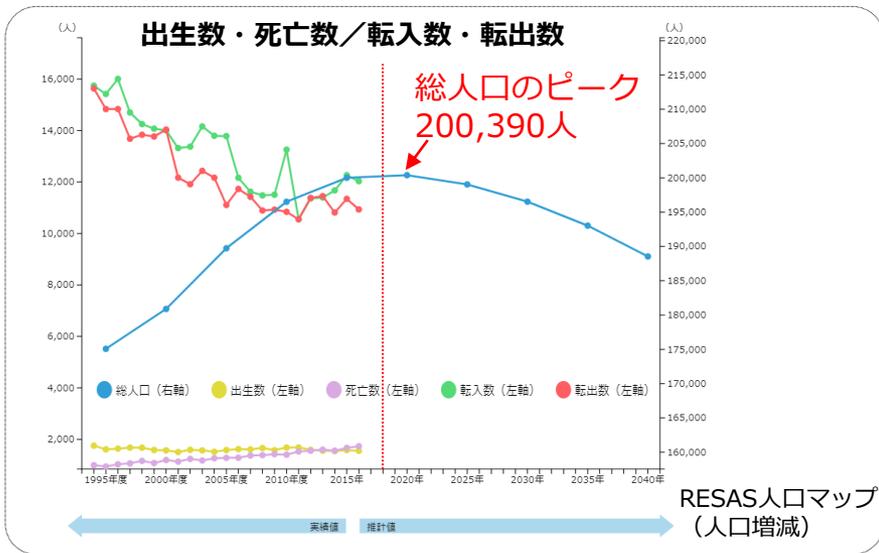
働く人の半分が都心などの市外で稼ぐ西東京市、都心との共存関係がある

(※) ここでは便宜上、東京23区を都心と定義する

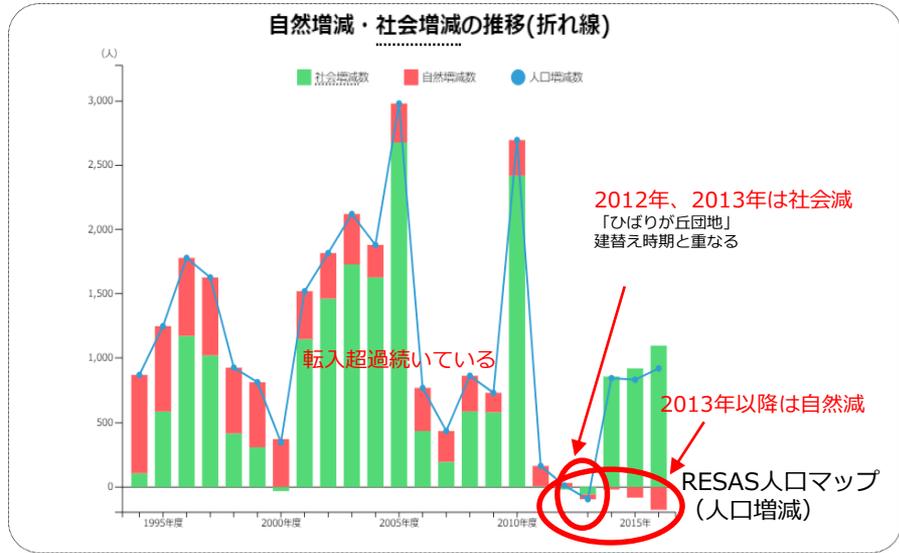
働く人の半数が都心などで稼ぐ西東京市、ここで生活する人たちは増えているのだろうか？

# 転入超過で人口は増加、20代後半は転出傾向

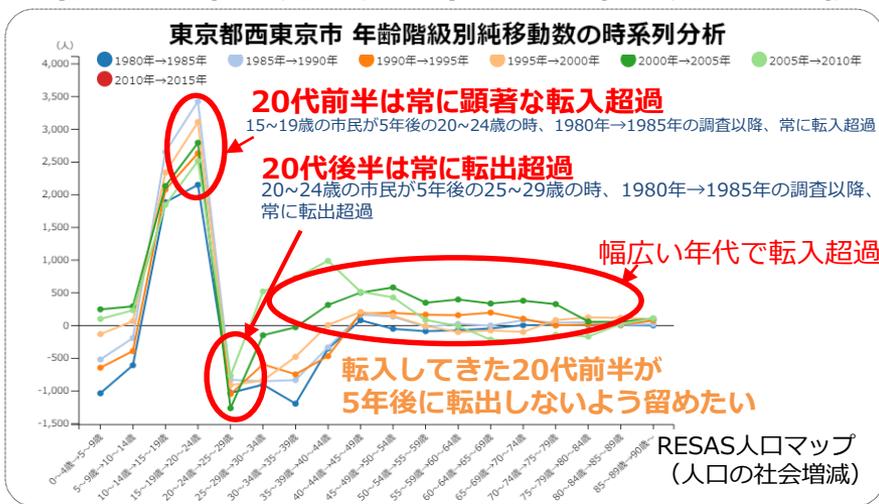
## 2020年をピークに人口は緩やかに減少へ



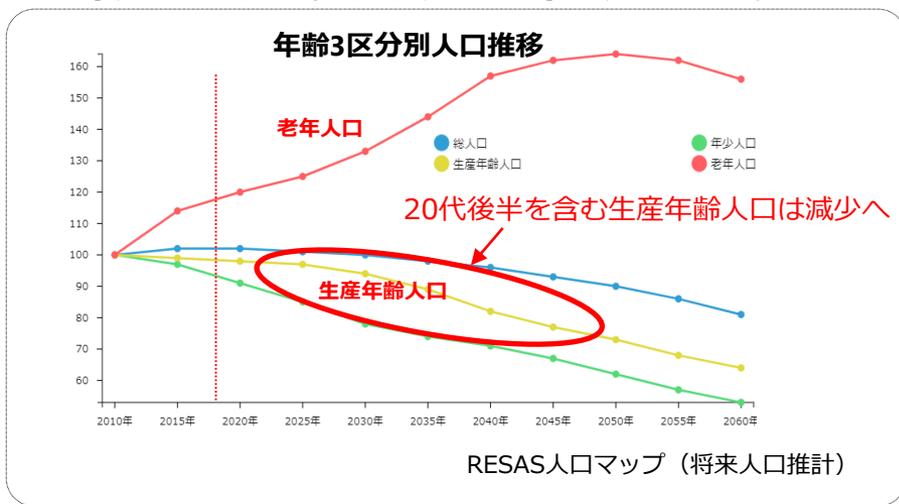
## 転入超過による人口増加が継続 (2012年、2013年を除く)



## 全体的には転入超過、20代後半は転出超過が継続



## 老年人口が急増する中、生産年齢人口は減少へ



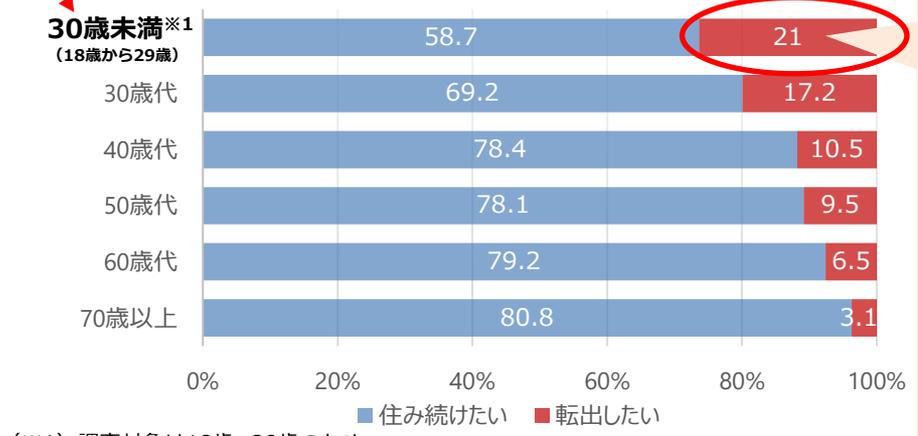
**20代後半の転出超過を減らせれば生産年齢人口の減少を抑えられるだろうか？ 転出理由に着目！**

# 20代後半は他の世代と比べて転出志向が高い

## 20代後半は他の世代と比べて転出志向が高く、転出理由は交通が不便と仕事の都合

### 20代後半はここ 西東京市民の継続居住意向

### 30歳未満（20代後半を含む）の転出理由は交通が不便と仕事の都合



(※1) 調査対象は18歳~29歳のため、20代後半は30歳未満に含まれる (20代後半のみのデータは不明)

平成29年西東京市民意識調査報告書に基づき作成

## 市民意識調査からは18~39歳の都心志向が覗える

- 就職したら住みたいまちは**都心**が最も多く、次いで、市内、近隣市区部※2
- 結婚したら住みたいまちは**都心**が最も多く、次いで、市内、近隣市区部※3

平成29年西東京市民意識調査報告書  
対象年齢は18~39歳のみ (20代後半のみのデータは不明)

調査対象の住みたいまちは市内、近隣市部 (練馬区含む)、23区 (練馬区除く) などに分けられ、23区の練馬区は市民意識調査では近隣市部に含まれる。練馬区を含めた23区のデータ、練馬区のみデータのいずれも不明であるが、「就職したら住みたいまち」、「結婚したら住みたいまち」のいずれの回答も23区 (練馬区除く) が最も多いため、ここでは都心が最も多いとした。

(※2) 市内(A)33.6 近隣市区部 (練馬区含む) (B)12.3 23区 (練馬区除く) (C)34.9 東京市町村 (A~C除く) (D)2.1 他都道府県 (新座市除く) (E)6.2 単位%

(※3) 市内(A)16.3 近隣市区部 (練馬区含む) (B)14.6 23区 (練馬区除く) (C)19.9 東京市町村 (A~C除く) (D)2.5 他都道府県 (新座市除く) (E)4.9 単位%

### 20代は人生の転機

転入超過の20代前半、転出超過の20代後半の引越し理由を考える

大学卒業、就職、結婚などをトリガーに引越しすると考えられる。

### 引っ越しをする理由 (仮説)

- 就職して一人暮らしを始める
- 職場に近い場所に引っ越す
- 結婚して、便利な場所で新生活を始める
- 家族が増えて、広い家に引っ越す

### 新たな生活をはじめる

### 都心への転出？

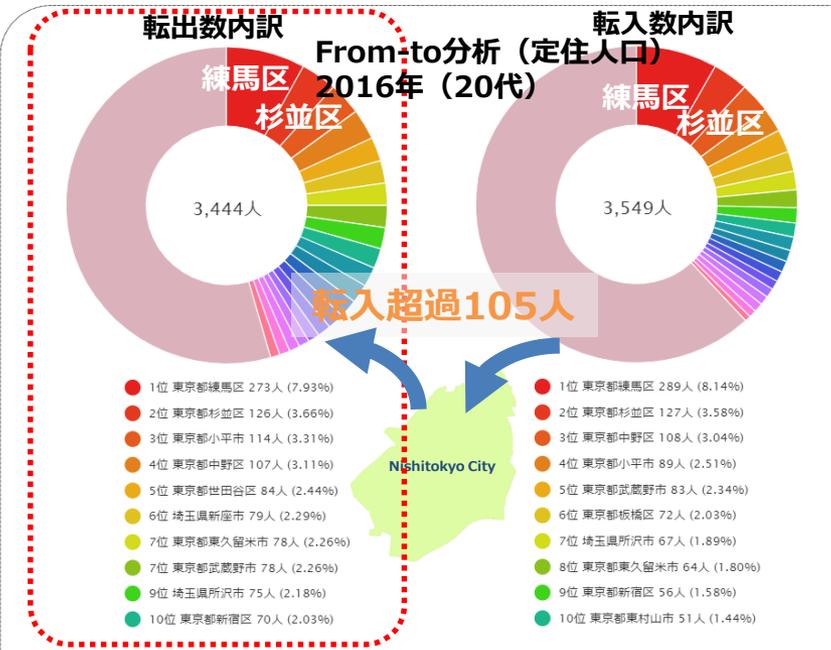


転出超過の20代後半、意識調査では都心への転出志向が覗える、転出先は都心なのか？

# 20代の転出先は都心が多い？

20代後半のみのデータは不明であるため、20代の転出先を調査

20代の転出先は練馬区、杉並区など都心西部が多いが実は105人の転入超過、全年齢層では郊外への転出傾向



RESAS人口マップ (人口の社会増減)

## 20代と全年齢層の転出先トップ10 (2016年)

20代		全年齢層	
都心への転出	郊外への転出	都心への転出	郊外への転出
1位練馬区	3位小平市	1位練馬区	2位小平市
2位杉並区	6位新座市	4位杉並区	3位東久留米市
4位中野区	7位東久留米市	8位中野区	5位武蔵野市
5位世田谷区	7位武蔵野市	10位世田谷区	6位新座市
10位新宿区	9位所沢市		7位所沢市
			9位東村山市
転出先自治体数トップ10は拮抗		転出先自治体数トップ10は郊外が多い	
19.2%	12.3%	16.0%	18.7%

転出数では都心が優勢

転出数では郊外が優勢

RESAS人口マップ (人口の社会増減) より作成

- 20代の転出先上位は練馬区、杉並区などの都心西部、ただし転入元上位も練馬区、杉並区
- 20代の転出先トップ10の自治体数は都心と郊外 (都心以外) が拮抗だが、転出数では都心が優勢
- しかしながら20代全体の転出・転入では105人の転入超過 **調査前の予想では都心への転出超過**  
年齢階級別純移動数では20代後半が転出超過であるが、20代前半が20代後半の転出超過を上回る転入超過のため全体では転入超過
- 20代の転出傾向を全年齢層と比較した場合、やや都心への転出志向が見られるものの、著しく都心志向とはいえない

## 20代の転出はやや都心志向が見られるが、都心からの転入も多いため、20代全体では転入超過

P5で転出超過に見える20代後半の転出先についてはデータがないため不明

交通が便利で職場に近い都心よりも西東京市や更に郊外に魅力を感じる人も多い？

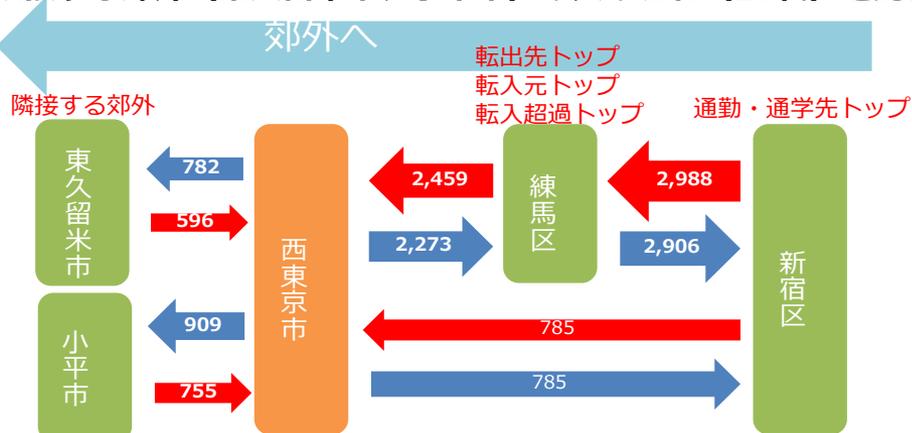
転出超過の20代後半の転出は抑えたいが、転出だけに注目せず、幅広く人の流れを俯瞰してみよう

# 人の流れは都心から郊外へ

20代の転出先は都心が多いが、都心からの転入も多く、全体的には都心から郊外へ向かっている

通勤・通学先トップ（新宿区）と隣接する都心（練馬区）、隣接する郊外（東久留米市、小平市）の人の流れ（20代）を比較

- 通勤・通学先トップは新宿区であるが、20代の転出先トップは練馬区（やや職場に近い?）
- 転出先トップの練馬区は転入元としてもトップで転入超過トップ（練馬区からの流入が多い）
- 新宿区（通勤・通学先トップ）への転出は練馬区への転出の3分の1
- 20代の移動の傾向には、新宿区⇒練馬区⇒西東京市⇒隣接する郊外という都心から郊外への流れが見られる
- 都心志向が高いかと思われた20代も全体では都心から郊外へ
- 他の世代は都心から郊外への流れが20代より顕著
- 都心からの転入者に西東京市に留まってもらえれば、人口増につながるか？



20代転出数と転入数 (2010年~2017年)  
RESAS人口マップ (人口の社会増減) より作成

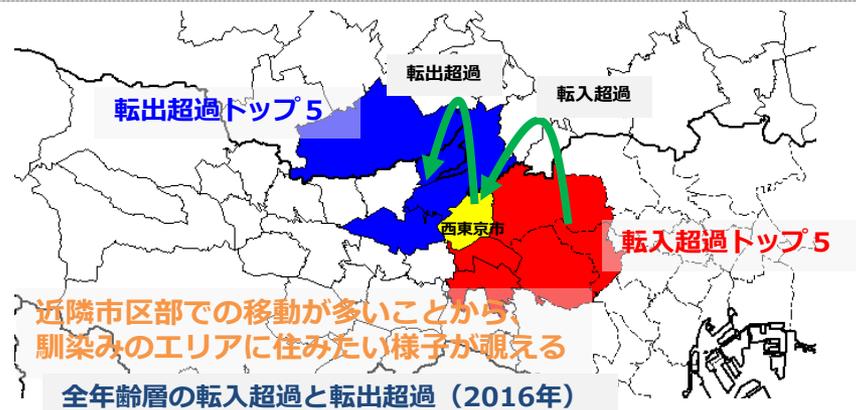
20代に限定せず、全年齢層の人の流れを分析する

都心から転入し、郊外へ転出していく人の流れは全年齢層で見られる

- どの年齢層でも都心からの転入超過、郊外への転出超過が見られる
- 通勤・通学先は都心であるにもかかわらず、定住人口の移動は都心から郊外へ

都心は便利で魅力的、しかしながら郊外にも魅力がある  
都心と比べて安価な住宅や自然に触れる機会など

- 都心から郊外への通過点にある西東京市は都心に隣接した郊外
- いまのところは転入超過で人口は増加
- 工夫次第で、都心からの転入をもっと増やし、
- 郊外への転出をもっと減らせるのでは？



RESAS人口マップ (人口の社会増減) より作成

「郊外」と「都心」の魅力进行分析して、「いいとこ取り」を考えよう

# 「郊外」と「都心」の魅力

## 良質な住環境の郊外と高い利便性の都心

**郊外（多摩地域など）** 良質な住環境、安心・安全、安らぎ  
 多くの人々が都心へ通勤・通学するが、都心と比較して、住居は安価で、自然に触れる機会が多い。

- 都心と比べて住居は安価、同じ家賃・価格なら、広い家に住むことができる。
- 公園や農地などの緑が多く、安らぎを感じることができる。
- 都心の喧騒と離れて、安心・安全に子育てができる。
- 買い物は通勤・通学帰りに駅前のスーパーを利用する、週末は家族でロードサイドの大型店に車で行くなど日常的な買い物には不自由しない。

VS

**都心（東京23区）** 高い利便性、ワクワク感

多くの企業、学校、商業施設、文化施設が集積し、公共交通の利便性が高い。

- 職場・学校に近く、通勤・通学による時間の浪費や疲労が少ない。
- 日用品に加え、高級品や流行に敏感な商品など、様々な商品を扱う店舗が集積し、買い物は便利だけでなく楽しい。
- 博物館、美術館、コンサートホールなどの文化施設が多く、様々な文化に触れる機会も多い。
- 公共交通機関の利用のみで大抵の場所にアクセスできる。

## 不動産取引価格、女性就業率、合計特殊出生率の比較

	所沢市	小平市	西東京市	練馬区	新宿区
中古マンション取引価格(2016年) ※1	30万円/㎡	36万円/㎡	41万円/㎡	58万円/㎡	88万円/㎡
土地（住宅地）取引価格（2016年）※1	12万円/㎡	22万円/㎡	25万円/㎡	35万円/㎡	75万円/㎡
女性25~39歳就業率（2010年）※2	-	55.2%	55.8%	55.5%	50.8%
合計特殊出生率(2008年~2012年) ※3	1.27	1.29	1.20	1.13	0.85

都心から郊外へ向かうにつれ、ファミリー世帯が過ごしやすい

(※1)RESASまちづくりマップ（不動産取引）

(※2)平成28年西東京市人口ビジョン 所沢市は比較データなし

(※3) RESAS人口マップ（人口の自然増減）

郊外の良質な住環境

西東京市のポジショニング

都心の高い利便性

都心に隣接した「郊外」で「郊外」の生活をしながら「都心」を享受できる

都心に隣接する西東京市は「郊外」と「都心」の“いいとこ取り”できるまちだった・・・

# 住みやすいまち 西東京市

## 西東京市は「郊外」と「都心」の“いいとこ取り”できるまち

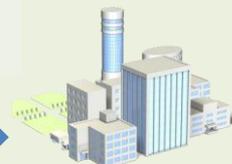
### 都心と比べ安価な住居

- 同じ広さなら価格は**半分**
- 同じ価格なら広さは**2倍**
- 持ち家比率**61.1%**※1



### 都心への良好なアクセス

- 新宿や池袋へ電車で**約20分**
- 始発駅で座って通勤



### 車での買い物も便利

- 週末はロードサイドの大型店へ



### 駅前には買い物に便利

- 日用品は市内で揃う
- 帰宅途中に食事や買物

### 自然と安らぎ

- 大規模な公園
- 都市型農業の農地が点在



### 子育てが安心

- 市内幼稚園の預かり保育は**100%**※2



### 働く人

- 働いている市民の約半数は23区へ通勤※1
- 従事している仕事は第三次産業が多い※1



### 所得の半分は市外から



女性25~39歳就業率 (2010年)  
**55.8%**※3

### 通勤・通学先トップ3

練馬区 新宿区 千代田区

通勤時間：往復1~2時間の通勤

市民生活に都心への通勤は欠かせない？

### 市民の通勤・通学先は都心

- 1位 東京都港区 8,415人 (11.04%)
- 2位 東京都千代田区 5,719人 (8.12%)
- 3位 東京都港区 4,970人 (7.05%)
- 4位 東京都世田谷区 4,559人 (6.43%)
- 5位 東京都港区 4,326人 (6.01%)
- 6位 東京都港区 3,996人 (5.56%)
- 7位 東京都港区 3,667人 (5.13%)
- 8位 東京都中央区 3,067人 (4.35%)
- 9位 東京都杉並区 2,548人 (3.62%)
- 10位 東京都港区 1,980人 (2.81%)
- その他 28,798人 (40.87%)



### 所得の半分以上を都心など市外で稼いでいる理由：

- 企業城下町と異なり、市内には大企業がない
- 企業が多い都心に隣接することから都心で仕事をする人が多い

(※1)平成28年「西東京市 まち・ひと・しごと 創成総合戦略」

(※2)西東京市内の幼稚園一覧

[http://www.city.nishitokyo.lg.jp/kosodate/yotien/siritu.files/ichiran\\_30.pdf](http://www.city.nishitokyo.lg.jp/kosodate/yotien/siritu.files/ichiran_30.pdf)

(※3)平成28年「西東京市人口ビジョン」

市外で稼ぐ西東京市民、市民が快適に働き続けるためには都心への良好な通勤アクセスが生命線か？

# 通勤アクセスはよいが、それでも毎日の通勤はストレス

都心への通勤には便利、ただし働きながら出産、家事・子育てをするには通勤時間はまだ長い

## 良好な通勤アクセスで都心へ

- 市内を走る鉄道 : 西武池袋線（ひばりヶ丘、保谷）西武新宿線（田無、西武柳沢、東伏見）
- 他社線との直通運転 : 地下鉄有楽町線、地下鉄副都心線、東急東横線、みなとみらい線
- 池袋、新宿へは約20分
- 池袋、新宿、高田馬場経由で都心各地へのアクセスはよい
- 一部の電車は始発駅が2駅もあり座って通勤も（楽に通勤）
- 南北交通はバスが充実（JR中央線各駅へのアクセスがよい）

乗換なし

## それでも毎日の通勤はストレスとなり、出産、家事・子育ての障壁となる

### 都心へのアクセスは良好だけど

- それでも自宅と会社との往復で1~2時間はかかり、積み重ねれば、長時間の通勤となり 時間がもったいない
- 満員電車で座れないと通勤は**ストレス**、毎日ヘトヘトだ・・・
- 残業で帰宅が遅くなると、保育園、幼稚園のお迎えに**間に合わない**
- 通勤時間が長いと家事・子育てをするのが**大変!**

子どもは欲しいけど・・・

やっぱり、都心の会社近くに住まないとな家事・子育てとの両立は難しい?!

市民の希望出生率 **1.76**  
 夫婦の希望子ども数 2.16人  
 独身者の希望子ども数 1.79人  
 平成28年「西東京市人口ビジョン」

合計特殊出生率 **1.20**  
 (2008年~2012年)

RESAS人口マップ (人口の自然増減)



こんな状態では、共働きは無理?

希望出生率と合計特殊出生率のギャップ 子どもは諦める?

**働きながら出産、家事・子育てをするには通勤時間が長いと難しい**

## 市内在住の働く人を応援するために考えること

もっと通勤時間や通勤回数を減らして通勤ストレスをなくせないか?

通勤ストレスがなくなれば、市内で働きたい人が増え、共働き世帯や出産する女性も増えるのではないか?

### 解決のアイデア: テレワークの活用

テレワークの活用で、市内で働きたい人や仕事と家事・子育てを両立したい人が増える?

これからはテレワークしやすいまちが、都心で働く様々な人に「選ばれるまち」になるかもしれない

# 仮説：テレワークで通勤時間や通勤回数を削減できれば 西東京市はもっと魅力的なまちになるのでは？

働き方改革、特にテレワークの推進により、通勤時間や通勤回数を削減できれば、日中、西東京市で働く人が増え、人口の社会増、更には人口の自然増につながると考える。

テレワーク環境の整備により「選ばれるまち」となることを目指す！

## テレワーク環境の整備



人口の**社会増**につながる

多様な働き方が可能となり、**共働き世帯**が増える

**家事・育児**の時間が  
増える

人口の**自然増**につながる



税収増により、**住みやすいまち**に整備される

市内の昼間人口が増加し、**まちが賑わう**

**趣味や自己啓発**  
などの時間が取れる

子どもを**産み・育てたい**  
と考える家庭が増える

西東京市の**税収**が増える



経済面

共働き世帯の増加により  
**世帯所得**が増える

精神面

心にゆとりが生まれ、  
生活の**満足感**が向上する

世帯所得が増え、**市内**でお金を使う

家族の**コミュニケーション**が増える

これまで仕事との両立が難しく、出産を諦めていた人も出産しても働ける環境をつくる。

働く人に「選ばれるまち」へ

# いつでも、どこでもテレワークは難しい

## テレワーク普及のハードルとテレワークに適したまちの条件

### ①すべての業務をテレワークに置き換えられるわけではない

普段はテレワークで仕事をしていても、時には**会社**に行かなくてはならない

- 短期的にはテレワークに置き換えづらい業務、テレワークでは効率が悪い業務は残る
- 重要な商談など、テレワークより対面で仕事をした方がよい場合もある

**会社から遠すぎたり、交通の便が悪いとテレワークをしていても仕事は制約を受ける？**

**条件：必要な時にすぐに会社に行ける距離にある**

### ②テレワークを利用しやすい環境がないと快適にテレワークは難しい

テレワークには、高速インターネットや業務に集中できるスペースなどが必要

- 高速インターネットが整備されていないとテレワークは制約を受ける
- 在宅の場合は個室が望ましい（家族がいると仕事に集中できない）
- 在宅以外の場合は集中できるスペース※などが必要

**山間部や島しょ部などでは、テレワークを利用しやすい環境整備（高速インターネットなど）が大変な地域もある？**

**都心部などには高速インターネットやデスクを備え、テレワークが可能な有料のサービス（テレワークオフィス）を提供する事業者がいる**

**条件：テレワークを利用しやすい環境がある**

### ③会社がテレワークを積極的に推進していないとテレワークは難しい

そもそも会社がテレワークを認めていなければテレワークはできない

- 経営者や従業員がテレワークを推進したい、利用したいという意識が必要
- 制度面やコスト面での支援体制がないと中小企業はテレワークを推進しづらい

**大手企業や中小企業でもIT系は比較的テレワークの推進に積極的か？**

**条件：潜在的にテレワーク利用可能な企業の従業員が多く住んでいる**

“テレワークでまちづくり”はよく耳にする、

しかしながらどんなまちでも“テレワークでまちづくり”ができるわけではないかもしれない

(※) ノマドワーカーはカフェなどを利用しているが、  
プライバシーを確保できるテレワークオフィスなどが望ましい

**テレワークに適したまちの条件を満たすのは、どのようなまちだろうか？**

# テレワークに適したまちはどこか？

- テレワークは都心に通勤しなくてもある程度仕事をできるようにする仕組み
- テレワークが普及しても、都心は今後もビジネスの中心的役割を果たす

## 都心から近い郊外（西東京市など）

テレワークによる  
通勤ストレス解消効果 **大**

主な勤務先は都心の企業（本社など）

現状、都心へ毎日通勤

- ・ 都心へ通勤する人が多く、通勤はストレス
- ・ テレワークにより地元で仕事も可能に
- ・ 時々、都心の企業（本社など）で会議に参加する、商談をまとめるなど都心に出る必要あり
- ・ 都心隣接のため、創造的な人材を集めやすい

人の移動は多い

30分~1時間

生活は都心より楽

- 住宅価格は手ごろ
- 自然に触れる機会もある
- 交通や買い物など利便性は比較的高い

## 都心から遠い郊外および地方都市

テレワークによる  
通勤ストレス解消効果 **小**

主な勤務先は地元の企業など

- ・ 地元勤務は職場が近く、通勤ストレスは少ない
- ・ 頻りに都心に行かなくてはならない仕事を地元で続けることは制約が大きい

人の移動は少ない

1時間以上

人の流れは主に  
地方都市とその周辺

生活は都心より楽

- 住宅価格は安い
- 自然に触れる機会が多い

## 都心

テレワークによる  
通勤ストレス解消効果 **小**

今後もビジネスの中心的役割を果たす  
特に東京は競争力ある世界都市として世界中から注目を集める

テレワークで都心が廃れることはない

- 大企業の本社機能が集積
  - 雇用がある
  - 取引先がある
  - ビジネスの意思決定は本社でされる
- 創造的な人材が集積
  - 大学などが多く、創造的な人材が豊富
  - 国内外から人が集まる
  - リカレント教育などの機会も多い
- 流行の最先端
  - ビジネスチャンスが多い

生活は郊外や地方都市より大変

- 住宅価格が高い
- 人が多い、騒々しい
- 職場が近いので、通勤ストレスは少ない

働き方改革が進む中、どのまちでもテレワークは有効だが、通勤時間や通勤回数を削減し、通勤ストレスを解消する観点からは、都心から近い郊外がテレワークのメリットを最も受けると考えられる

西東京市はテレワークに適したまちだろうか？

# 西東京市はテレワークに適したまち

都心に隣接した西東京市は、都心で働く人にとって、テレワークに適したまち

## テレワーク普及の条件

- ①必要な時にすぐに会社に行ける距離にある  
普段はテレワークで仕事をしていても、時には会社に行かなくてはならない
- ②テレワークを利用しやすい環境がある  
テレワークには、高速インターネットや業務に集中できるスペースなどが必要
- ③潜在的にテレワーク利用可能な企業の従業員が多く住んでいる  
会社がテレワークを積極的に推進していないとテレワークはできない

## 西東京市のアドバンテージ

- 都心に隣接し、すぐに会社へ行ける距離  
都心へのアクセスがよく、対面での重要な会議など、緊急時でもすぐに駆け付けられる（新宿、池袋へ20分）
- 本政策アイデア実施で環境整備  
高速インターネットは既に市内全域で利用可能  
テレワークオフィスの誘致・整備は本政策アイデア（実証実験）を通して試行
- テレワーク導入企業の多い都心に隣接し、潜在的なテレワーク需要は高い  
今後テレワーク導入は都心の大企業や働き方改革に積極的な企業で進み、都心で働く人の多くが対象に

## 民間企業がサテライトオフィスの設置で重要視する点も満たす

- 民間企業がサテライトオフィスの設置で重要視する点※
- 生活や交通の利便性の良い市街地
  - 地域の創造的人材が集まる土地

### 西東京市

- 都心へアクセスがよく、駅前に大型商業施設があり利便性が高い
- ヒト・モノ・カネが集中する東京圏に位置する西東京市は創造的人材も集めやすい

西東京市は民間企業がサテライトオフィスの設置で重要視する点の多くを満たしており、民間企業にアピールできればテレワークは更に進む！



サテライトオフィスの設置で重要視する点

(※) 平成29年総務省「サテライトオフィス」設置に係る民間企業等のニーズ調査等の結果について（速報）

西東京市はテレワークに適したまち、テレワークで働く人に「選ばれるまち」を目指そう！

# 働く人に「選ばれるまち」へ

## 鉄道駅周辺にテレワークオフィス※1を設置・誘致し、ネットワーク化を目指す

民間施設、公共施設、企業、働く人を有機的に結びつけ、多様な働き方を実現できるまちを実現！



### 公共施設

テレワークが可能な簡易スペースを提供



簡易スペース

### テレワークオフィス

テレワークブース※2のほか、プリンターによる印刷、会議、商談、異業種交流などの場を提供

テレワーク向け料金プラン  
1時間〇〇円



テレワークブース

プリンター

カフェ

会議スペース

商談スペース

ラウンジ

### カフェ/カラオケショップなど

テレワーク向け料金プラン

1時間〇〇円+ワンドリンク



テレワークブース

カフェ

### 民間貸し会議室

テレワーク向け料金プラン

1時間〇〇円



テレワークブース

会議スペース

いつでも、だれでも、気軽に利用できる

近隣施設（公共施設、カフェ/カラオケショップ、民間貸し会議室など）を連携

### テレワークオフィス予約管理システム



- ・空き状況検索
- ・予約
- ・利用料金確認

近くの空いているテレワークブース※2などを予約

鉄道駅 商店街  
まちの賑わい創出

- ・共働きの増加
  - ・世帯収入の増加
  - ・**税収**の増加
  - ・人口の**社会増**
  - ・人口の**自然増**
  - ・まちの**活性化**
- ¥
- まちの変化

テレワーク推進により 全国各地の社員

- ・全国から人材採用
- ・オフィスの拡張は不要
- ・対面の会議はテレワークオフィスなどセカンドオフィスとして使用



市内中小企業

(※1)テレワークに適した誰でも利用可能なオフィス  
 (※2)テレワークに利用するデスクなど  
 (※3)テレワークオフィス、近隣公共施設、カフェ/カラオケショップ、民間貸し会議室などを連携するシステム

働く人に「選ばれるまち」は、子どもが生まれ育つ活気のあるまちになるかも

働く人  
(ノマドワーカー含む)

自宅でもテレワーク  
オフィスでも自由な  
働き方ができる

# テレワークオフィスのイメージ

**本施策で整備を目指すもの** 主にモバイルワーク、サテライトオフィスをサポートする仕組みを検討※

1.いつでも、誰もが利用できる  
テレワークオフィスの設置  
または誘致

いつでも、誰でも、気軽に利用



2.テレワークオフィス予約管理システム  
による近隣施設の連携  
(バーチャルオフィス化)



3.市内中小企業、ノマドワーカーの  
テレワーク支援

雇用拡大

生産性向上



## テレワークオフィスの条件（整備を検討）

- 駅の近くなど利便性の高い立地
- 様々な業種、職種の人が利用可能な共有スペース
- 時間単位でオンライン予約可能
- 高速なインターネットアクセス
- 人目を気にせず仕事ができるセキュアな環境（個室またはパーティション）
- リラックスできるラウンジや給茶機、ドリンク自動販売機などの設置

## テレワークを普及させる工夫

- 市や民間がテレワークオフィスを提供する事業者に働きかけテレワークオフィスを誘致する
- テレワークオフィス普及のための助成（事業者向け、個人向け）
- 法人を対象にテレワークのPR（市内に社宅がある企業などには重点的に実施）

### （※）参考：テレワークの形態（一般的な分類）

- 在宅勤務
- モバイルワーク（ノマドワーカーを含む）
- サテライトオフィス

**まずは、いつでも、誰でも、気軽に会社と変わらず仕事ができる環境を整備しよう**

# テレワーク推進に向けた実証実験（週1通勤、週4テレワーク）の提案

週1日通勤、週4日テレワークの実現に向けて 西東京市内駅周辺にテレワークオフィスを設置  
テレワークを核に、働きながら出産、家事・子育てを可能にする、働く人に「選ばれるまち」の実現を実証  
**テレワークオフィス実証実験のイメージ（西東京市、3年間）**



**利用者**

（ノマドワーカー含む）

自宅より集中できる  
通勤でヘトヘトになる  
ことがない  
時間を有効に活用

働き方改革の推進  
従業員に選ばれる企業へ  
オフィススペース削減に  
よるコストダウン



**企業等  
（市内外）**

利用



支援



## 1.いつでも、誰もが利用できる テレワークオフィスの設置または誘致

- ・ 駅周辺に250㎡程度の  
テレワークオフィスを確認
- ・ 個室またはパーティションによる  
セキュアな作業スペース  
（テレワークブース）20席
- ・ 高速インターネット
- ・ 会議室1室
- ・ プリンター
- ・ ラウンジまたは交流スペース  
（飲料自販機等設置）
- ・ 従量課金または定額利用料

## 2.テレワークオフィス予約管理システム による近隣施設の連携（バーチャルオフィス化）

- ① テレワークオフィス予約管理システム  
（プロトタイプ）
  - ・ 空き状況検索機能
  - ・ 予約機能
  - ・ 利用状況レポート機能
  - ・ 課金機能
  - ・ 外部システム連携機能など
- ② 近隣施設の連携
  - ・ 連携施設拡充
  - ・ 連携施設利用状況調査

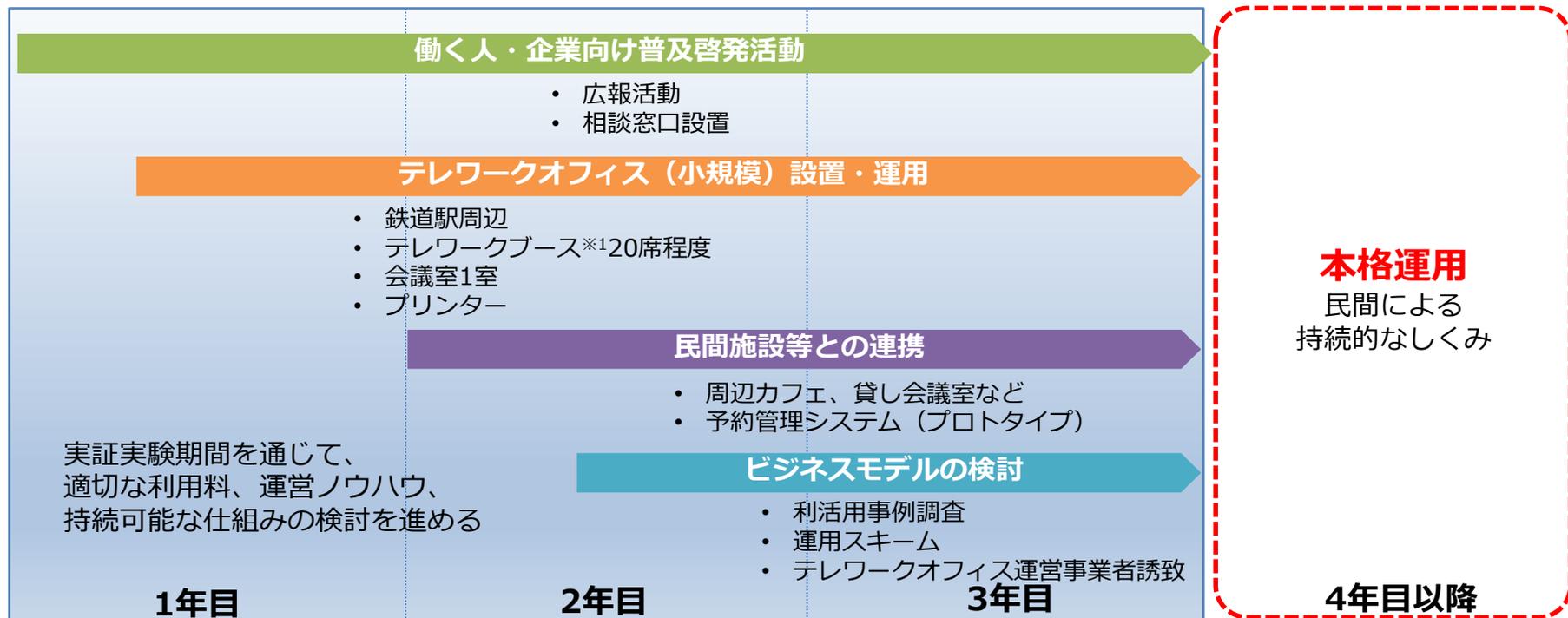
## 3.市内中小企業、ノマドワーカーのテレワーク支援

- ① 西東京市内中小企業向け導入支援
  - ・ システムインテグレーション事業者紹介や法制度相談窓口設置
  - ・ テレワーク事例紹介
- ② 利用者（ノマドワーカー含む）へのPR
  - ・ 市報、Webなどを通じたPR
  - ・ テレワーク事例紹介
  - ・ テレワーク利用推進に向けた意識調査
- ③ 企業等（市内外）へのPR
  - ・ 都心に拠点を持つ企業への働きかけ
  - ・ 市内中小企業への働きかけ

**はじめは小さく実証実験で有効性を検証、そして民間を中心とした本格導入へ！**

# テレワーク推進に向けた実証実験の進め方と実現性

## 実証実験のスケジュール



## 本提案は十分な実現性がある

### 実現性

パーツとしては様々な事例があり、本提案ではパッケージにして推進する

- 「働き方」改革は今後ますます重要となり、既に多くの企業がテレワークを**導入済**、または**導入を検討**している
- テレワークオフィスとして使える**様々なサービスが既に提供**され、**拡がりを見せつつある**
  - ・ ノマドワーカーを想定したカフェ
  - ・ モバイルオフィス
  - ・ ビジネス利用を想定したカラオケボックス
- まちづくりの施策としてテレワークに取り組む**まちの事例※2**も多い

既に様々な取組みがされている

提案の実現は現実的

(※1) パーティションのあるデスク  
高速インターネット利用

(※2)参考：総務省トップ > 政策 > 情報通信(ICT政策) > ICT利活用の促進 > テレワークの推進  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/telework/index.htm](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/telework/index.htm)

# まとめ

- 西東京市は働く人の半数が都心で働く**ベッドタウン**
- 西東京市は**郊外と都心の魅力**を享受できるまち
- 都心への**通勤アクセスはよい**が、毎日の**通勤はストレス**
- テレワークの導入が通勤のストレスを**解消**する
- 西東京市は時には出勤回数を減らすことのできる**テレワーク**に適したまち
- テレワークを通じて、「**選ばれるまち**」として、**人口の社会増と自然増**を目指す
- 3年間の**テレワーク実証事業**を通じて、**持続可能な仕組みづくり**を検討していく
- 提案のパーツは既に様々な事例があり、提案は**十分に現実的**

**週1通勤、週4テレワークで始まる地元8割、都心2割の働き方**  
**私は仕事と子供を共にGET！**

**テレワークで人口の社会増、そして自然増を目指す！**